

ご挨拶

副理事長 糸谷 知剛

先日被爆70年祈念事業「アートアクアリウム展～広島・金魚の祈」というイベントに参加した。この行事を一言で説明すると「展示してある金魚を鑑賞する」行事であるが、聞くと見るとでは内容の感じ方に大きな違いがあった。

簡単に説明するが、まず会場に入るまでの通路には、内容を示すポスターが掲示されており、花魁を思い起こさせるような紫基調の魅惑的なポスター、会場前にはお酒を片手に飲みながら入場し楽しめるようにカクテルバーが設置されており、いざ会場に入ると赤や白、黒など様々な色の金魚が水槽を優雅に泳いでいる。水槽の形もベネチアガラスで色とりどりに加工され、水槽には紫や赤のイルミネーション、日本の禅をイメージさせるプロジェクションマッピング、その他には音楽、香りで、多くの人を魅了するアトラクションに変貌していた。

そこに多くの観客は列を作り、決して安くはない金額を支払って見学する。元はと言えば、おそらくどの家庭でも一度は飼われた事がある金魚にも関わらず、である。

本年度、L I V A V L E ☆～住みよい 魅力ある 誇れるまち～というスローガンの下活動するにあたってヒントを見つけたような気がした。

昨今多くの都市においてその観光地のPR合戦が繰り広げられている。商品のコモディティ化が広がる中、呉市という商品もご多分に漏れず、その無数の輝く都市の一つにしか過ぎず、どう魅力を伝えようともその中に埋もれてしまっているのであろう。

本年度、呉青年会議所では呉という商品を買って頂くため、既存の魅力の価値を知り、魅せ方や演出方法を変え、あらゆるラッピングを施し、時には新たな商品として世に送り出せるような事業を行う。この昔ながらの夏の風物詩、金魚と同様にひと工夫する事によってまた新しい価値を創造し、多くの人を呼び込むことが可能となることを信じている。